

利息引き直し計算ソフト 説明書

●基本的な操作方法	2
●スピード入力	3
●電卓入力	6
簡単入力	7
●利息などの設定欄	8
利息の計算方法	10
印刷の設定	13
推定計算	14
元利均等払	16
請求できる金額	17
訴状の印紙額の計算	18
●利息計算一覧表	19
データの削除訂正方法	20
●請求書作成	21
●ご質問・ご要望など	22

画面の説明

No.	日付	借入額	返済額	利率	日割	元金	利息へ元金	返済額	元金へ返済	元金残高	返済利息累計
		0	0								

基本的な操作方法

引き直し計算をするためには、いついくら借りて、いついくら返済したかの一覧表が必要です。金融業者に「取引履歴明細」を発行してもらいます。

取引履歴の入力方法は2種類

1. **スピード入力** 表計算ソフトのように入力していきます。
引き直し計算に特化した入力方法ですので、素早く入力することができます。
2. **電卓入力** 電卓を使うように入力していきます。

カーソルの移動方法

- 下へ : リターンキー
- 右へ : タブキー

入力方法

- * お取引が 1 年以上あいた場合は、「年」は自動判別されませんのでその部分のみ手入力してください。
- * 借入が「0」の場合（返済した日）は、何も入力せずリターンキーを押すと次の行へ移ります。
- * 「借入」が入力されている行は、「返済」には入力できないようになっています。（入力しても「0」に戻ります。）

編集機能

行の挿入

新しい行を挿入したい場合には、挿入する後ろの行を行ごと反転させ、右クリックして「挿入」メニューを選んでください。

一行削除

削除したい行にカーソルを置いて、右の「一行削除」のボタンを押すか、右クリックして削除のメニューを選んでください。

全て削除

右の「オールクリア」ボタンを押してください。

年月日順に並べ替え

年月日順に並べ替える必要がある場合は、右の「年月日順に並べ替え」のボタンを押してください。並べ替えと同時に通し番号も振り直します。

※ 年月日順に並んでいなくても、また通し番号が通っていなくても、引き直し計算には影響はありません。チェックなどの便宜にご利用ください。



保存

作業中または作業後のファイルを保存することができます。ツールバーのメニュー「ファイル」から、「上書き保存」または「名前を付けて保存」のメニューを選んでください。保存したファイルを開く場合は「開く」のメニューを選んでください。

コピー・貼り付け

コピー・貼り付けをしたいセルを選択し、右クリックしてメニューを選びます。金額をコピー・貼り付けする場合は「借入返済の単位」を「そのまま」にしないとうまくいきません。**Shift**キーを押しながらリターンキーを押して直前に入力した数字をコピーしていく方法もあります。

データの流し込み

入力が終了したら、右下の「データ流し込み」のボタンをクリックしてください。利息引き直しソフトの本体にデータが流し込まれ、引き直し計算が実行されます。

電卓入力

引き直し計算の基本的な操作方法是次の通りです。

1. 利息などの設定欄 で利息、過払い金、利息の計算方法を設定する。
2. 金額の入力欄 で「いつ、いくら借りたか」、または「いつ、いくら返済したか」を1行ずつ入力していきます。
3. 利息計算一覧表 の「借入金総額」は最終の日付時点でのものです。

1. 「利息などの設定欄」で設定をします。通常は変更する必要はありません。

The screenshot shows a mobile application interface for loan calculations. At the top, there is a date selector set to '2007年 1月 1日 (平成19年)'. Below this are two buttons: '借入' (Borrow) in red and '返済' (Repayment) in blue. A numeric keypad follows, with a '0' key that has '000' above it, and 'オールクリア' (All Clear) and '1文字クリア' (1 Character Clear) keys. Below the keypad is an input field with '円' (Yen) to its right. At the bottom, there is a '再計算' (Recalculate) button and a checkbox labeled '値を固定する' (Fix value).

今日

今日の日付に戻ります。

2007年 1月 1日 (平成19年)

3. 日付を入力します。
ここをクリックするとカレンダーが出ます。

借入 返済

4. 借入か返済かを選びます。

1	2	3
4	5	6
7	8	9
0	00	000
オールクリア	0000	1文字クリア

5. 金額を入力します。
テンキーで入力することも、金額欄に直接入力することもできます。
借入は赤い文字、返済は青い文字で表示されます。

借入

円

6. 入力ボタンを押します。

入力

ここにチェックをすると、入力ボタンを押しても金額が消えません。毎月一定の額を返済するときにチェックすると入力が楽です。

7. 以上の作業を繰り返し替えます。

値を固定する

再計算

再計算

データを1行削除したり訂正した場合、または入力途中で設定を変更した場合は、必ず「再計算」ボタンを押してください。

簡単入力

キーボードだけを使って、金額や日付を簡単に入力することができます。

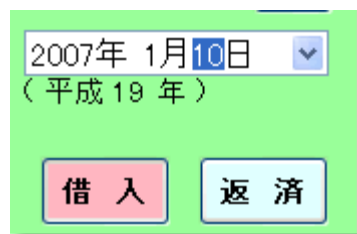
日付欄

日付の部分をクリックして青く反転させます。

Ctrl キーを押しながら

テンキーの 6 を押すと 1ヶ月進みます。

テンキーの 4 を押すと 1ヶ月戻ります。



Ctrl キーを押しながら

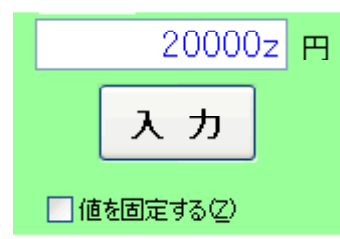
テンキーの 4 または 6 を押すと 借入 と 返済 が交互に選択されます。

金額入力欄

パソコンのテンキーまたは数字キーを Ctrl キーを押しながら入力すると、赤い部分の文字が入力できます。



金額に z (半角のゼット) を付けて、「入力」を押すと、「値を固定する」にチェックが付きます。もう一度 z を付けて金額を入力すると、チェックが消えます。



利息などの設定欄

利息

利息制限法に基づく上限利率

元本金額	年利
10万円未満	20%
10万円以上100万円未満	18%
100万円以上	15%

元本がいくらであるかによって、上記表の通り年利が変わります。ただし、次のような規則があります。

例えば、最初に100万円以上の借入れをし、年15%の利率で計算を始めたとしても、その場合、その後の返済によって元本が減り100万円未満になったとしても利率が増えることはなく、最後まで15%のまま計算します。

このことは、途中で借り増しした場合も同様です。例えば最初に50万円借りて利率18%で計算を始めたとしても、借り増しをして元本が100万円以上になれば利率は15%に減ります。しかし、その後の返済によって元本が100万円未満になっても利率が増えることはありません。

つまり、返済や借り増しで元本が変化することによって利率が下がることはあっても、上がることはないということです。

一覧表に利率を直接入力

一覧表に直接入力していきます。%を付けて入力してください。

任意の利率（10回まで）

任意の利率で計算する場合に使用します。

表示幅の都合上、小数点以下3桁までしか表示されませんが、4桁以上の小数点であっても計算は正確にされます。

こちらを選択すると次の画面に変わります。

利息引き直し計算	利息などの設定	印刷の設定	推定計算	元利均等払	請求できる金額	訴状の印紙額計算
----------	---------	-------	------	-------	---------	----------

<p>利息</p> <p><input type="radio"/> 利息制限法に基づく上限利率</p> <p><input type="radio"/> 一覧表に利率を直接入力(% を付けて入力)</p> <p><input checked="" type="radio"/> 任意の利率 <input type="text"/> %</p> <p>途中で利率を変更する(10回まで)</p> <table border="1"> <tr> <td>No.</td> <td><input type="text"/></td> <td>から</td> <td><input type="text"/></td> <td>%</td> </tr> <tr> <td>No.</td> <td><input type="text"/></td> <td>から</td> <td><input type="text"/></td> <td>%</td> </tr> <tr> <td>No.</td> <td><input type="text"/></td> <td>から</td> <td><input type="text"/></td> <td>%</td> </tr> </table> <p><input type="checkbox"/> 借入初日を参入して計算</p> <p><input type="button" value="追加"/></p>	No.	<input type="text"/>	から	<input type="text"/>	%	No.	<input type="text"/>	から	<input type="text"/>	%	No.	<input type="text"/>	から	<input type="text"/>	%	<p>過払い利息</p> <p><input checked="" type="radio"/> 元本に充当しない</p> <p><input type="radio"/> 追加借入金に対してのみ充当する</p> <p><input type="radio"/> 取引の都度、元本に充当する</p>	<p>過払い金</p> <p>過払い金について</p> <p>年 <input type="text" value="5"/> %</p> <p>の利息を付して計算する</p>
No.	<input type="text"/>	から	<input type="text"/>	%													
No.	<input type="text"/>	から	<input type="text"/>	%													
No.	<input type="text"/>	から	<input type="text"/>	%													

途中で利率を変更する (10回まで)

任意の利率で計算する際、途中で利率を変更する場合に使います。

「No. ○○ から」というのは、利息計算一覧表に表示されている No. のことです。借り始めた時の利率は「任意の利率」に入力し、変更後の利率はこちらの欄に入力します。最初は3行表示されていますが、4回以上変更したい場合は、「追加」ボタンを押すと1行増えます。

初日を算入する

チェックしておくこと、借入をしたその日を1日目として計算します。これを両端計算と言います。本ソフトでは、最初の借入についてのみ両端計算をします。

民法上の期間計算によれば、借り入れた翌日を1日目として計算するのが原則になります(民法第140条)。しかし、特約がある場合や特別な法令によって初日を算入する場合にチェックしてください。

通常はチェックする必要はありません。

過払い金

民法上は過払い金についても利率が適用されるのが原則です。ただし、金融業者が悪意であること(つまり、過払いであることを認識していたこと)を主張する必要があります。

過払い金に対する利率は年5%であるという最高裁判決が出されましたので、それで計算しておけばよいと思います。

過払利息

元本に充当しない

過払い金に対する利息が発生していても、元本にも新たな借入金にも一切充当しません。

借入金に対してのみ充当する

過払い金に対する利息が発生しているときに、新たな借入をしたときに、その借入金に対してのみ過払い金利息を充当します。元本に充当することはありません。

取引の都度、元本に充当する

過払い金に対する利息が発生しているときに、借入または返済を行ったときに、その時点の残元本に過払い金利息を全て充当します。

利息の計算方法

利息引き直し計算 | **利息などの設定** | 印刷の設定 | 推定計算 | 元利均等払 | 請求できる金額 | 訴状の印紙額計算

利息の計算方法(日割り)

- A方式(1年に満たない期間につき暦年毎に計算)
- B方式(全期間につき暦年毎に計算)
- C方式(全期間につき年365日の日割り計算)
- D方式(1年に満たない期間につき年365日の日割り計算)

小数点以下

- 切り上げ
- 四捨五入
- 切り捨て

利息の計算

利息引き直
ます。借入
による差で
A方式が最
年がなけれ

A方式(1

計算開始期日
2003年10月1日

終了期日
2005年3月1日

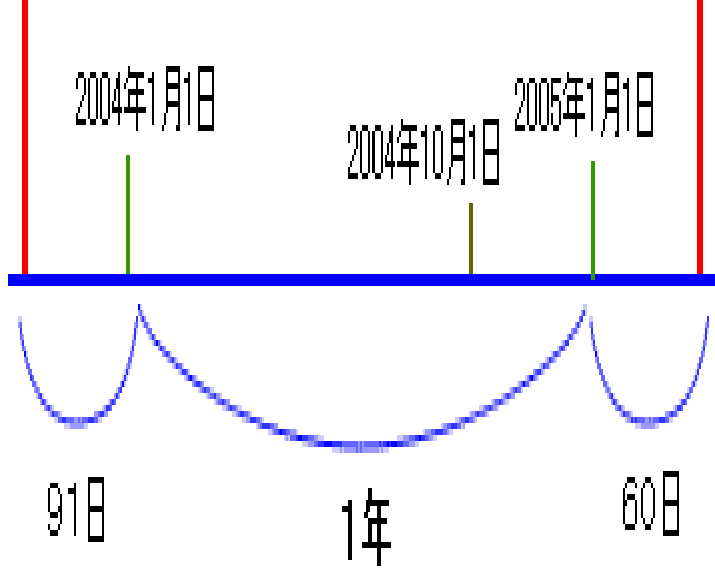
ってくる場合があり
うるう年があること
が、期間内にうるう

まず、借入期間の開始日と終了日との期間が1年以上あるかどうかを確認し、年数についてはそのまま年率を乗じて計算します。

1年に満たない期間については、その開始日あるいは終了日が、うるう年にかかっている場合、暦年毎に区切って計算します。

※「年利」という概念がきちんと考慮されているため裁判所などで採用されることが多く、最も利息が安く計算されることが多い方式です。

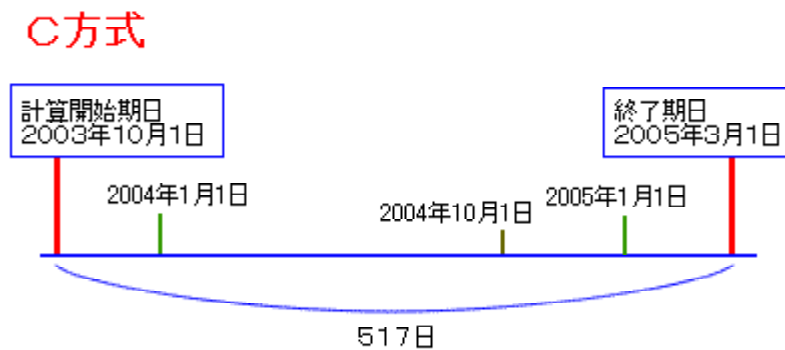
B方式(全期間につき暦年毎に計算)



1月1日から12月31日までの年ごとに区切って計算します。

※最も分かりやすい方式なので、一般的に使われることが多い方式です。

C方式（全期間につき年365日の日割計算）

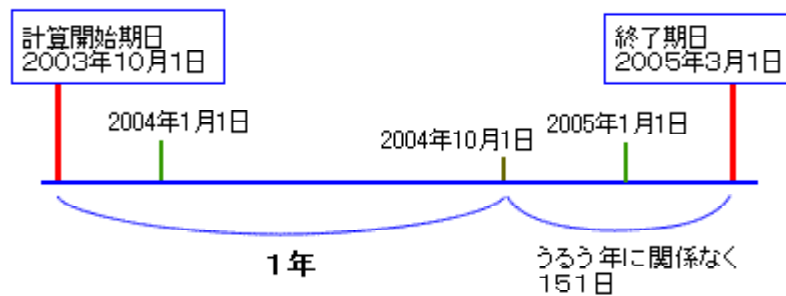


通常年・うるう年にかかわらず、1年を365日として計算します。
単純に、借入日数を365で割り、答えが年数、余りが日数となります。

※「年利」という考え方を無視し、最も利息が高く計算されることが多いのですが、計算がしやすいので使われることが多い方式です。

D方式（1年に満たない期間につき年365日の日割り計算）

D方式



まず、借入期間の開始日と終了日との期間が1年以上あるかどうかを確認し、年数についてはそのまま年率で計算します。

1年に満たない期間については、その開始日あるいは終了日が、うるう年にかかっていたとしても年365日として計算します。

※「年利」という概念を考慮しながら、計算のしやすさも考えられた方式です。

小数点以下

利息計算において、小数点以下を「切り上げ」、「四捨五入」、「切り捨て」から選択することができます。

印刷の設定

利息引き直し計算 | 利息などの設定 | **印刷の設定** | 推定計算 | 元利均等払 | 請求できる金額 | 訴状の印紙額計算

印刷の際の表題

表題<上段> 利息制限法の上限利率に基づく利息計算表
表題<中段>
表題<下段>
(各項目とも20文字まで)

表題の右側に

計算条件を印刷する
 次の文章を印刷する

 何も印刷しない

印刷の際の年号

西暦
 和暦
 一覧表の表示のまま

印刷 **印刷プレビュー**

ページ番号の印刷

する 初期値 1 しない

カラー印刷

する しない

印刷の際の表題

印刷する際に、表題として20文字までの文章を印刷することができます。

「表題（上段）」、「表題（中段）」、「表題（下段）」の順番に並びます。

「表題（上段）」の文字は、他より少し大きな文字で印刷されます。

表題の右側に

表題の右側に、計算条件などを印刷することができます。やや小さな文字で印刷されます。

年号

印刷する際に、元号が西暦か和暦が選択できます。和暦の場合、昭和は「S」、平成は「H」と表示されます。

ページ番号の初期値

印刷する際に、1ページ目のページ番号が何ページから始まるかを指定できます。また印刷しないも選択できます。

カラー印刷

印刷する際に、マイナス数字が赤く印刷されます。

推定計算

推定計算は 取引履歴に基づく入力とは別に 推定計算だけを行ってください。

利息引き直し計算 | 利息などの設定 | 印刷の設定 | **推定計算** | 元利均等払 | 請求できる金額 | 訴状の印紙額計算

推定計算をするには、取引履歴に基づく入力とは別に、推定計算だけを行ってください。

最初の取引

記入例: 2007/11/5

最初の借入日 1998/1/15

最初の借入額 500,000 円

契約上の利率 32.25 %

毎月の返済日 25 日

取引履歴の最初の取引

記入例: 2007/11/5

日付 2000/11/5

借入 返済

金額 30,000 円

借入残高 300,000 円

計算

計算 キャンセル

推定計算の印刷

推定計算とは

金融業者から取引履歴を取り寄せた際に、業者によっては、10年以上前の記録は廃棄したなどという理由で出してもらえない場合があります。

その場合は、自らの記憶や記録に頼って、借入金額や返済金額を推定して入力し、とりあえず計算表を作成して返還請求することになります。

これを **推定計算** と言います。

本ソフトでの推定計算の方法

推定計算はあくまでも推定ですので、どのように計算しなければならないという規則はありませんが、取引履歴の最初の記録と合致させる必要があります。

本ソフトでは、次のように推定計算を行っています。

1. 「最初の借入日」 「最初の借入額」 「契約上の利率」 から
2. 取引履歴の最初の 「取引日」 「取引金額」 「元金残高」 に合致するように推定計算期間中の **毎月の返済額** を計算しています。

※推定計算で過払い返還請求をする場合は、請求書や訴状に、どのように推定計算を行ったかの根拠を記載した方が良いでしょう。

推定計算だけの計算表を別に印刷し、この期間は上記の計算方法で計算した旨を記載しておく方が良いでしょう。

推定計算を行うには

推定計算を行う際は、取引履歴に基づく入力を行う前に、まず推定計算のみを行います。
入力すべき項目を全て入力し、**計算** を押します。
不明な箇所は推定で入力します。

「契約上の利率」とは、業者が主張する契約上の利率のことです。

推定計算が終わりましたら、「利息制限法に基づく上限利率」による **再計算** を行い、その後取引履歴に基づく入力を行っていきます。

※計算の結果、取引履歴の元金残高と数円ずれる場合があります。
その際は返済金額などを少し変えて、**再計算** して調整してみてください。

※推定計算の期間が長くなると、計算に大変時間がかかります。また、条件によっては計算できない場合もあります。
その際は **計算キャンセル** を押してください。

元利均等払

利息引き直し計算	利息などの設定	印刷の設定	推定計算	元利均等払	請求できる金額	訴状の印紙額計算
----------	---------	-------	------	--------------	---------	----------

西暦 <input type="text"/> 年 <input type="text"/> 月以降	<input checked="" type="radio"/> 完済するまで
毎月 <input type="text"/> 日に <input type="text"/> 円	<input type="radio"/> 西暦 <input type="text"/> 年 <input type="text"/> 月まで
	<input type="radio"/> <input type="text"/> 回

返済日が土日祝日等の場合
<input checked="" type="radio"/> 翌営業日にする
<input type="radio"/> 前営業日にする
<input type="radio"/> そのまま

「元利均等払」とは、毎月一定の日に、元金と利息の合計金額として一定額を返済していく方法です。例えば、「毎月25日に2万円づつ12回払い」などです。返済金をまず利息に充当し、残りを元金の返済に充てていきます。

○年○月以降、毎月○日に○円を返済する場合、

- 1, ○年○月まで
- 2, ○回
- 3, 完済するまで

の3種類が選択できます。

毎月月末にしたいときは、「31」と入力してください。

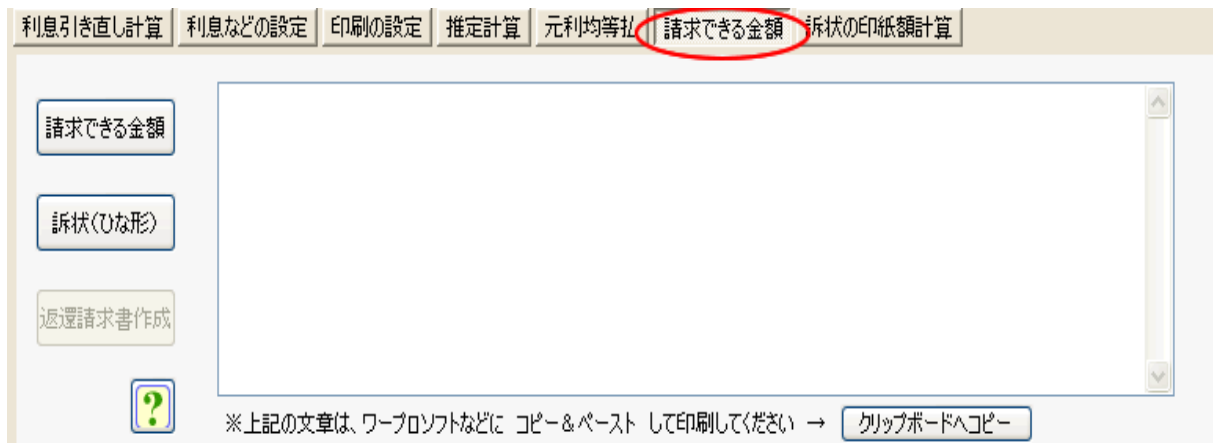
返済日が土日祝日等の場合

毎月一定日を返済日と定める場合、その日が土日祝日などの金融機関の休業日にあたる場合、自動的に返済日を営業日に変更することができます。

- 1, 翌営業日
- 2, 前営業日
- 3, そのまま

の3種類が選択できます。

休業日とは、土曜日、日曜日、祝日（振り替え休日を含みます）、1月2日・3日のことです。



請求できる金額

取引履歴に基づいて過払い金計算が終了した後、いくら請求ができるのかを表示します。請求できる金額は原則として次の通りです。

「過払い利息を元本に充当する」を選択して計算した場合は、最終取引日（一番最後に借入または返済した日）の時点での残元本と、それに対する年5%の利息を請求することができます。

「過払い利息を元本に充当しない」を選択して計算した場合は、最終取引日の時点での残元本+過払利息と、残元本に対する年5%の利息を請求することができます。

訴状（ひな形）

一般的に使われている過払金返還請求事件の訴訟のひな形を表示します。あくまでも一般的なものであり、どこの裁判所でも通用するわけではありません。実際の訴状提起の際は、裁判所での指示に従って作成してください。

請求書作成

※「請求できる金額」を表示させるとボタンが押せるようになります。

過払い金が発生した場合に、業者に対して返還請求書を作成するための機能です。

（※この機能はライセンス登録が必要になります。試用期間中はお使いになれません。）

利息引き直し計算	利息などの設定	印刷の設定	推定計算	元利均等払	請求できる金額	訴状の印紙額計算
----------	---------	-------	------	-------	---------	----------

訴 額	500,000 円
<input type="button" value="計算"/>	
訴状に貼る印紙額	5,000 円

地方裁判所または簡易裁判所に提起する「訴状」に貼る印紙額の計算ができます。印紙額は、裁判で請求する金額（訴額）によって決まります。控訴や上告の印紙額の計算はできません。

No.	日付	借入額	返済額	利率	日数	発生利息	利息へ 充当	未返済 利息	元本へ 充当	元本 残額	過払 利息計
112	2006/01/06	0	35000	18.0%	25	2,383	2,383	0	32,617	160,745	0
113	2006/01/27	0	35,000	18.0%	21	1,664	1,664	0	33,336	127,409	0
114	2006/03/10	0	30,000	18.0%	42	2,638	2,638	0	27,362	100,047	0
115	2006/04/10	0	30,000	18.0%	31	1,529	1,529	0	28,471	71,576	0
116	2006/05/10	0	30,000	18.0%	30	1,058	1,058	0	28,942	42,634	0
117	2006/06/19	0	30,000	18.0%	40	840	840	0	29,160	13,474	0
118	2006/07/18	0	30,000	18.0%	29	192	192	0	29,808	-16,334	0
119	2006/08/12	0	25,000	5.0%	25	0	0	0	25,000	-41,334	56
120	2006/09/25	0	25,000	5.0%	44	0	0	0	25,000	-66,334	306
121	2006/10/14	0	25,000	5.0%	19	0	0	0	25,000	-91,334	479
122	2006/11/20	0	25,000	5.0%	37	0	0	0	25,000	-116,334	942
123	2006/12/05	0	25,000	5.0%	15	0	0	0	25,000	-141,334	1,182
▶*		-	-								
合計		1,590,000	2,049,355						合計	-141,334	1,182

右クリックメニュー

- 1行削除** 削除したい行を選択し、クリックします。[Delete]キーでも削除できます。
- コピー** コピーしたい行を選択し、クリックします。
- 全て選択** 全ての行を選択できます。
- 貼り付け** 貼り付けたい場所を選択し、クリックします。エクセルなどから貼り付けることもできます。
- コピーしたセルの挿入** 挿入したい場所を選択し、クリックします。

一覧表の説明

- 日付** 借入または返済を行った日付
- 借入額** その日に借り入れた金額
- 返済額** その日に返済した金額
- 利率** その日付の時点での利率

利息制限法に基づく上限利率によって計算する場合は、その時点での元本残額によって自動的に利率が変化します。

※表示幅の都合上、小数点以下3桁までしか表示されていませんが、4桁以上の小数点でも計算は正確に行われています。

- 日数** 前回の日付からの経過日数
 - 発生利息** 前回の日付から新たに発生した利息金額
 - 利息へ返済** 今回の返済金額のうち、利息に充当された金額
 - 未返済利息** 今回の返済金額によっても、まだ返済しきれていない利息金額
 - 元本へ返済** 今回の返済金額のうち、元本に充当された金額
 - 元本残額** その日付の時点で残っている元本金額
 - 過払利息計** 過払いが発生している場合、その過払金に対する利息 その時点での合計額
- ※「過払利息を元本に充当する」を選択している場合は、全て元本残額に足されるため、表示されません。

借入額合計 全ての借入金額の合計額
返済額合計 全ての返済金額の合計額
元本残額合計 最終の日付の時点での 未返済利息+元本残額
過払利息合計 発生した過払利息の合計額

※「過払利息を元本に充当する」を選択している場合は0になります。

※返済した金額は、まず利息に充当され、その残額が元本に充当されます(民法第491条)。

データの削除訂正方法

入力したデータを1行削除する

削除したい行を「利息計算一覧表」から選択して、右クリックメニューを表示させ、「1行削除」をクリックしてください。あるいは **Delete** キーでも削除できます。

入力データの訂正

表を直接訂正してください。あるいは、訂正したい行を1行削除し、新たに入力してください。入力したデータは自動的に日付順に並び変えられます。

データのコピー

「利息計算一覧表」のコピーしたい行を選択して、右クリックメニューを表示させ、「コピー」をクリックしてください。

shift または **ctrl** を押しながら選択することで複数行を選択することができます。

メインメニュー項目

ファイル

新規作成 新しくデータ入力を開始します。

開く 保存してあるデータを読み込むことができます。

上書き保存 データを上書き保存します。

名前を付けて保存 入力したデータを保存することができます。保存形式を **CSV** ファイルにすると、カンマで区切った形式で保存することができます。 **CSV** ファイルはエクセルなどで開くこともできます。

追加して開く 現在開いている表に追加する形で別のファイルを開きます。

印刷プレビュー 印刷プレビューを表示します。

印刷 入力したデータの一覧表を印刷できます。

終了 本ソフトを終了します。

*データを「上書き保存」すると、以前のデータは「○○○.bak」という名前で保存されます。もしも万が一間違えて「上書き保存」してしまった場合は「.bak」を「.csv」に直せば以前のデータを見ることができます。ただし、1世代だけですので、2度以上「上書き保存」をしてしまうと見ることはできません。

ヘルプ

ヘルプ このヘルプです。

基本的な使い方

本ソフトについて バージョン情報。シリアルナンバーの入力もここで行います。

請求書作成

※「請求できる金額」を表示させるとボタンが押せるようになります。

(この機能はライセンス登録が必要になります。試用期間中はお使いになれません。)

過払い金が発生した場合に、業者に対して返還請求書を作成するための機能です。
一般的な内容であり、適宜都合の良い内容に変更しても構いません。

通常文書形式

A 4 用紙に印刷されます。

内容証明形式

郵便局の窓口で差し出せる内容証明郵便形式です。
A 4 用紙に横 26 文字×縦 20 行で印刷されます。

※内容をよく確認のうえ、作成してください。

ご質問・ご要望など

ご質問、ご要望などは下記メールアドレス宛にお寄せ下さい。ご質問については可能な限り迅速にご回答いたします。ご要望は全てにお応えできるとは限りませんが、次期バージョンアップにおいて出来る限りお応えできるようにします。

mail@tdon.net

著作権について

本ソフトのプログラム、画像などの著作権は株式会社TDONが所有します。

株式会社TDON

〒102-0094 東京都千代田区紀尾井町3番33号 プリンス通ビル2階

TEL 03 (5215) 3433

Copyright (C) 2007 TDON Co., Ltd. All rights reserved.